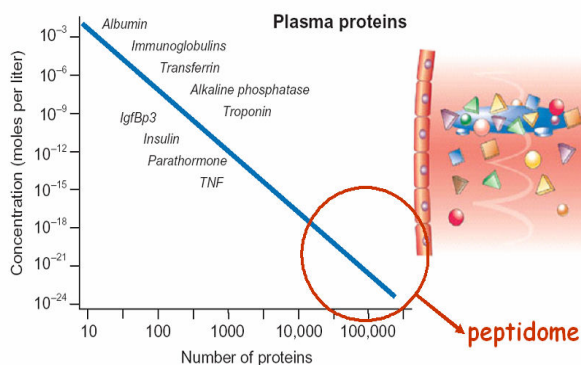


高感度で定量性に優れた血清蛋白質スクリーニングシステムによる血清診断アルゴリズム (札幌医科大学医学部分子機能解析部門 教授 小海康夫)

血清には大量の未知蛋白質が存在し、病気を反映してリアルタイムで変化している。しかし、極めて低濃度のため、旧来は検出できなかった。私たちは、疾患の状態と蛋白質の機能を反映した分子分画法と質量分析を用いた高感度で定量性に優れた血清蛋白質スクリーニングシステムを開発した。このシステムにより、薬の効果や痴呆を検出し、いままで不可能だった低侵襲で高感度な血清診断アルゴリズムを提供している。

血清は未知ペプチドの宝庫→診断治療の新しいパラダイム →血清を用いた治療効果判定と創薬基盤の提供

血清蛋白質の濃度と種類

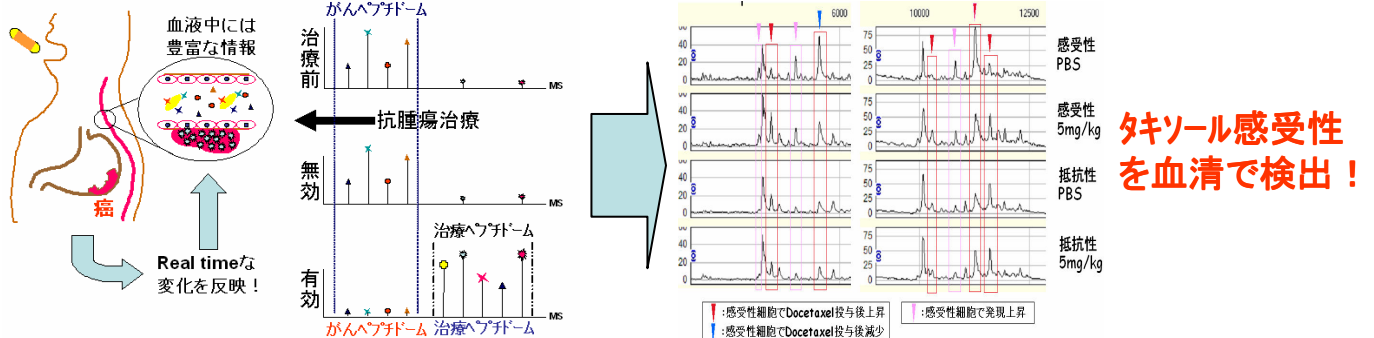


低侵襲で高感度な診断

治療効果判定
疾患スクリーニング

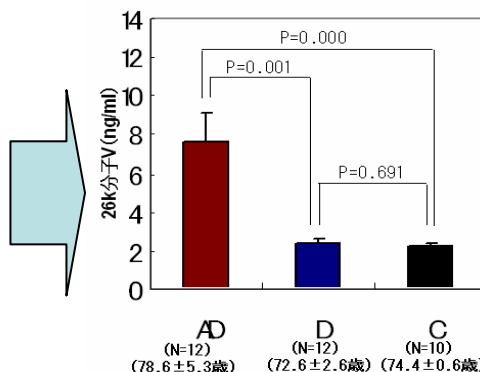
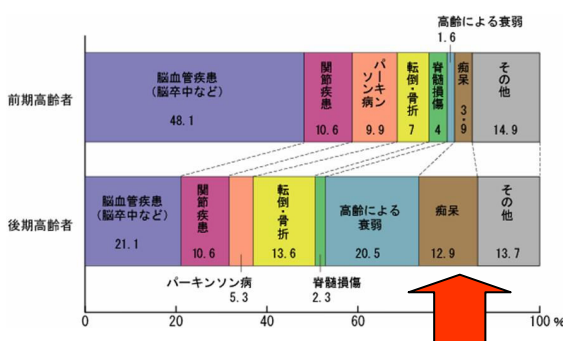
診断・治療の創薬基盤

抗がん剤の治療効果判定(年間死亡者30万人:最大の死因)



アルツハイマー病の血清診断(高齢化社会の最大の懸念要因)

年齢による要介護の原因の違い



アルツハイマー病と他の痴呆、健常者を血清で鑑別!